

秋ギク「神馬」の3月開花作型における挿し穂の前歴および本圃での加温方法と生育開花

出口 浩
(長崎県総合農林試験場)Hiroshi Deguchi:
Effects of Cutting History and Heating Methods on Growth and Flowering
Behavior of Fall Chrysanthemum Variety "Jinba" Cropping Type of Flowering in March

秋ギク「神馬」は、3月開花作型では電照消灯後に花芽分化が遅延しやすく、また、開花揃いも悪く、問題が多い。この花芽分化の遅延は、長期間冷蔵した挿し穂を用いた場合や、電照期間の夜温を低温で管理した場合に発生が多い。

そこで、親株の栽培温度および消灯までの温度管理が花芽分化遅延に及ぼす影響を明らかにし、「神馬」の低コスト栽培技術を確立する。

1. 材料および方法

「神馬」を供試し、2001年11月30日に直挿しし、2002年1月24日に消灯した。挿し穂は、16℃加温栽培した親株および無加温栽培した親株より採穂する2試験区を設けた。加温方法は、直挿しから消灯まで6試験区を設け、消灯までの全期間を13℃および16℃一定とする2試験区、直挿し当初13℃とし、消灯10, 15, 20, 30日前から16℃に上げる4試験区とした。以上のように、挿し穂の前歴2試験区、本圃での加温方法6試験区を組み合わせた12試験区を設定した。消灯以降は、同一管理とした。

2. 結果および考察

消灯時の草丈は、無加温栽培の挿し穂が生育旺盛で、16℃加温栽培の挿し穂に比べて10cm以上長く、展開葉数も2~3枚多くなった(第1表)。挿し穂の前歴に関わりなく、電照期間中に13℃一定管理を行うと草丈が短くなった。また、今回の55日の電照日数では、加温栽培した挿し穂は草丈の伸びが悪く、十分な切り花長が確保できなかった(第1表)。

開花は、親株を加温栽培することにより早くなった。しかし、無加温栽培の挿し穂を用いた場合においても、直挿しより16℃一定、あるいは消灯20日前から16℃に夜温を高めることによって到花日数は短くなり、開花揃いも良くなった(第2表)。

以上の結果、十分な切り花長を確保し、開花遅延を起こすことなく開花揃いを良くする低コスト温度管理法として、無加温栽培した挿し穂を用い、電照期間中は当初13℃とし、消灯20日前から16℃に高めて管理するのがよいと考えられる。

第1表 親株の栽培温度、電照期間中の加温方法と直挿し後の生育

電照期間中の加温方法	無加温栽培挿し穂				加温栽培挿し穂			
	消灯時		採花時		消灯時		採花時	
	草丈	葉数	草丈	葉数	草丈	葉数	草丈	葉数
13℃一定	54.6cm	22.0枚	100.5cm	44.9枚	44.6cm	20.8枚	85.7cm	42.2枚
10日前16℃	58.1	23.8	102.5	45.8	50.9	21.8	89.4	44.1
15日前16℃	59.6	24.2	103.3	46.4	47.7	22.2	87.9	44.5
20日前16℃	62.1	24.8	104.1	47.6	48.8	22.1	88.3	43.5
30日前16℃	61.1	24.0	102.6	46.0	52.4	22.0	91.8	42.9
16℃一定	64.4	26.1	104.1	47.8	51.7	22.2	90.1	42.4

第2表 親株の栽培温度、電照期間中の加温方法と採花日

電照期間中の加温方法	無加温栽培の挿し穂		加温栽培の挿し穂	
	採花日	平均採花日	採花日	平均採花日
13℃一定	3/21~3/30	3/24	3/16~3/20	3/17
10日前16℃	3/19~3/28	3/23	3/13~3/17	3/16
15日前16℃	3/19~3/26	3/21	3/15~3/17	3/16
20日前16℃	3/17~3/22	3/19	3/14~3/16	3/15
30日前16℃	3/15~3/19	3/17	3/13~3/17	3/14
16℃一定	3/14~3/17	3/15	3/12~3/15	3/13